

大人

ほきたえ
ほめる

「校訓とともに」

じぶんから みんなと いっしょけんめい

子ども

つみかさね

長崎市立外海黒崎小学校
令和5年度学校だより
令和5年12月20日(水)
校長 溝川 浩

今年最終！ 今回は両面掲載です

2学期はなにがなんでも！
「あいさつ」

～当たり前前の生活ができることに感謝～

学力とふるさと教育をテーマに、さまざまな人と関わらせながら展開してきた2学期教育活動でした。これもコロナ禍が一定収まり、制限なしの活動ができたからと、日常の当たり前前に感謝しているところです。

子どもたちには「つみかさね」を合言葉に、これまで努力することを決めさせ事に向かわせましたが、ご家庭での暮らしぶりはいかがだったでしょうか。

当たり前前の生活が叶うことに感謝し、令和6年がさらによい年になるようお祈りいたします。

★通知票は子どもを伸ばすためにあるものです★

今年の二学期終業は十二月二十二日。終業日には終業式があり、そして通知票渡し各校、各教室で行われます。楽しみでもあり不安でもあり・・・。通知票については、私自身、小学生の時にはずっと苦い思いをしました。今も昔も変わらない学校文化の一つに「通知票」があります。年を経ながら通知票の中身にも変化が起こり、私たち世代の5段階評価から今では3段階になり、また、手書きがワープロ活字になるなど、時代の求めに応じて変化を続けています。将来、ペーパーが廃止されデータとなり、家庭での通信で渡されるようになるかもしれません。時代に共に変化を続ける通知票ですが、変わらないことに「一定期間の成果と課題を知ること」「子ども一人一人を伸ばすためにあること」があります。

成績が振るわず、落胆する子どもや保護者の姿を覚えて覚悟して、担任は通知票を作成します。そのときの担任の思いは、お子さんを伸ばすことができなかつた悔しさ・申し訳なさなど重たいものです。決して淡々と成績処理する担任はおりません。振るわなかつた成績を記すときの担任の思いは「毎日少しずつの努力をしてほしい」とか「面倒なことでも自分で決めて机に向かってほしい」「やればできる」などのお子さんへのエールです。

前述しましたが、小学校6年間見事好成绩ではなかつた私なぜ大学まで進学することができたか。それは、母が我が子の可能性を信じ続けてくれたからです。机に向かうよりも友だちと遊ぶことを何より生き甲斐にしていた溝川少年。母は、毎学期息子が持ち帰ってくる出来の悪い通知票を大切に保管し、中学進学の際に私に見せてくれました。中身がどうかではなく、我が子の学びの足あとを大切にしてくれたことに感謝の気持ち覚え、中学では心を入れ替え机に向かい、多くの仲間をつくり師と仰げる先生と出会い、教員を志して今があります。

通知票は叱るためではなく、伸ばすための情報として大切にしてください。幸いです。
そして、伸びた所を心の底から喜んであげてください。通知票がクリスマスプレゼントを凌ぐものになるように、我が子が伸びようとする一言をどうかお願いいたします。

十二月十五日(金)放課後、大学体験で交流した長崎大学の先生と学生の5人が来校。出会いが温かい関係を生みました。大切にしていきたいです。



表彰状

学校賞

長崎市立外海黒崎小学校様

貴校は令和五年度「私の『夢・憧れ・志』」作文コンクールにおいて学校をあげて取り組まれた頭書の成績を認められましたその熱意と努力を称えここに表彰します

令和五年十月二十八日

一般財団法人長崎県教育会

理事長 小田恒浩

教育会より「私の『夢・憧れ・志』作文コンクール」毎年度応募してきた本校に「学校賞」が贈られました。毎年の取組の積み重ねが認められたということです。おめでとうございます。

交流を始めた長崎大学教育学部の学生の方から素敵な贈り物が届きました。手作りのクリスマスツリー一掲示板。来年までホールに展示します。来校の折にぜひご覧ください。

今回の冬休みは17日と少々長め。子どもにとって嬉しいことである一方で、親にとっては怠惰な習慣が身につかないか心配のことと思います。学校も同じことを心配します。

欧米では、長期休業には学校の宿題はないとのこと。それでも学力は世界で上位。秘訣は親の徹底した生活指導にあるようです。幼い時から就寝・起床・勉強の時間、家の手伝いにはかなり厳格で、それを叱らずに褒めながら習慣化させるとのこと。させられ感がないので、気持ちよく生活力が獲得でき、自立も早いそうです。

長い冬休みの子育て目標にはいかがでしょう。↓活かして下さい

冬休みわたしをのばす3つのふ

ふれあい

かぞく・ちいきの人とふれあい、絆(きずな)を深めよう。※あ・は・は、家のしごと

ふるさと

ちいきのかつどうにすすんでかわり、町のよさをたくさん知ろう。

ふりかえり

力をつけたいことをきめて、毎日べんきょう。

★3学期始業日(しぎょうび)は1月9日(火)

★冬休みも「じぶんから みんなと いっしょけんめい」に生活すること

寒いときにはけが防止のためにも手袋を
 実際に起きた出来事です。以前私が赴任していた学校で、冬の寒期中、ポケットに手を入れて登校していた児童二人が、路上で転んでしまいました。そのとき、一人は前歯を二本折り、もう一人は顔の骨を骨折しました。いずれも顔を地面に強打したことによるものです。
 子どもは経験不足な存在です。そのような子たちへは、「この先になにかあるか」について教えていくことが必要であり、命に関わることについては、絶対に周囲の大人が指導することが必要です。
 年明け、さらに寒くなります。通学や外出の際、安全確保のために手袋着用を促してください。

外海黒崎小なつこ

★二月外海つ子発表会を休日に開催します

育友会総会でもお知らせしましたが、来年二月十八日(土)開催で計画を進めてまいります。今年度からは保護者に加え、住民の皆様会場の都合上、人数制限をさせていただくかもかもしれません。すみません。(にもご案内予定です。来年になりましたら、回覧板等でもお知らせいたします。)

★コミュニティ・スクールの準備組織ができました

令和6年発足に向け、今の学校評議員五人が中心となり、住民代表、育友会会長、校長の総勢十三人による準備会が組織されました。準備員が来年四月からそのまま学校運営協議会の委員として市教委から委嘱を受ける予定です。正式に承認されたのち委員を公表予定です。

★ひときわ目を引いた本校の小音会出演

今年も大活躍でした。小音会に出場する学校は基本学級単位ですが、本校は稀な「1〜4年合同チーム」です。小規模校の特色を強みにし、1〜4年生チームで合唱を毎年度披露しています。加えて指揮者は初経験の先生。何度も繰り返し練習したのでしよう。堂に入った見事な指揮でした。今年から参観者制限が解かれ、多くの保護者、ご家族の皆様が来場されたそうです。感謝申し上げます。

★綿を紡ぐ体験

十二月、高学年で栽培した綿を糸に紡ぐ活動を、地域の方にご指導をいただきながら行いました。綿を製品に仕上げていくことの難しさを、地域の先人の方の努力に感じることができたとても貴重な体験でした。

★クリーン作戦で大貢献

十一月、毎年恒例の地域美化活動を実施しました。今年は黒崎川に漂流したペットボトルを住民ボランティア力をお借りして回収。その量ゴミ袋五十以上。大陸から海流に乗って辿り着いたものばかり。地球規模のSDGS活動に貢献しました。

